

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成31年4月11日(2019.4.11)

【公開番号】特開2018-1033(P2018-1033A)

【公開日】平成30年1月11日(2018.1.11)

【年通号数】公開・登録公報2018-001

【出願番号】特願2017-200949(P2017-200949)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成31年3月1日(2019.3.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

演出画像の表示を行う表示手段を含む複数の演出手段と、
受信したコマンドに応じて演出手段の動作を制御する制御手段と、
を備え、
前記制御手段は、

複数のフレームバッファ領域について、前記表示手段で表示される画像の表示データの読み出しを行う第 1 領域と、次のフレームの表示データの描画を行う第 2 領域としての割り当てを順次切り替えるとともに、

前記表示手段で表示される画像の 1 フレーム期間の終了の際に、

前記第 2 領域とされているフレームバッファ領域での次のフレームの画像の表示データの描画完了の確認と、

描画完了確認後における前記第 1 領域と前記第 2 領域の切替と、

前記切替後における、描画完了を確認したフレームの更に次のフレームについての、画像素材データ記憶手段に記憶された画像データを所定の記憶領域に記憶させるプリロード処理の完了の確認と、

完了したプリロード処理に基づいて描画を行うフレームの更に次のフレームについてのプリロード処理の開始と、

を行う遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

本発明の遊技機は、演出画像の表示を行う表示手段を含む複数の演出手段と、受信したコマンドに応じて演出手段の動作を制御する制御手段とを備え、前記制御手段は、複数のフレームバッファ領域について、前記表示手段で表示される画像の表示データの読み出しを行う第 1 領域と、次のフレームの表示データの描画を行う第 2 領域としての割り当てを

順次切り替えるとともに、前記表示手段で表示される画像の1フレーム期間の終了の際に、前記第2領域とされているフレームバッファ領域での次のフレームの画像の表示データの描画完了の確認と、描画完了確認後における前記第1領域と前記第2領域の切替と、前記切替後における、描画完了を確認したフレームの更に次のフレームについての、画像素材データ記憶手段に記憶された画像データを所定の記憶領域に記憶させるプリロード処理の完了の確認と、完了したプリロード処理に基づいて描画を行うフレームの更に次のフレームについてのプリロード処理の開始と、を行う。

なお遊技機は、演出画像の表示を行う表示手段を含む複数の演出手段と、受信したコマンドに応じて演出手段の動作を制御する制御手段とを備え、前記制御手段は、受信したコマンドの解析処理は、前記表示手段で表示される画像の1フレーム期間内における、フレーム開始タイミングから所定時間を経過するまでのフレーム前端側期間においてのみ開始するようにしてもよい。

フレーム前端側期間とは、フレーム期間内でフレーム開始時点から所定時間経過するまでの期間である。例えば1フレーム期間を前半と後半に分けた場合の前半期間である。

受信したコマンドについては、解析処理を行って、その解析結果により演出内容が決められることになるが、このコマンドの解析処理は、フレーム前端側期間においてのみ開始し、フレーム開始から所定時間経過後は、解析処理を開始しないようにする。

また、前記制御手段は、前記表示手段で表示される画像のフレーム同期信号に基づいてカウントを行うカウンタにより、フレーム開始タイミング及び前記フレーム前端側期間の終了タイミングを検知することが考えられる。

例えば垂直ブランキング信号等の画像のフレームに同期した信号に基づいてカウントを行うカウンタにより、フレーム開始タイミング及びフレーム前端側期間の終了タイミングを認識する。これにより、タイミング管理を容易化できる。

また、演出画像の表示を行う表示手段を含む複数の演出手段と、受信したコマンドに応じて演出手段の動作を制御する制御手段とを備え、前記制御手段は、受信したコマンドの解析処理は、前記表示手段で表示される画像の1フレーム期間内において、フレーム開始タイミングに応じて1回実行する。

これによりフレームの開始タイミング直後にコマンド解析処理が開始される。1回のみ行われるため、コマンド解析処理の開始がフレーム期間の後半になることは、通常発生しない。